

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告(第二輯) 8

廣西師範大學出版社

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告（第二輯）8

廣西師範大學出版社

· 桂林 ·

目 录

兴安北省、兴安东省、滨江省及龙江省役畜资源调查报告

满铁调查部

一九三九年六月……………一

家畜交易市场调查

满铁新京支社调查室

一九四〇年四月……………二〇〇

目 録

興安北省同東省濱江省及龍江省ニ於ケル役畜資源調査報告

滿鐵調査部

昭和十四年六月

一

家畜交易市場調査

滿鐵新京支社調査室

昭和十五年四月

二〇〇

極秘

保 № 352

諺一諺 9

乙資分 350-11

與安北省同東省
濱江省及龍江省

二
於
ケ
ル
伎
術
資
源
調
査
報
告

派

鑑

。

調

査

部

例言

一 古來滿洲ニ於ケル役畜ノ生産ハ主トシテ呼倫貝爾及內蒙古ノ所謂遊牧地帶ニ於テ行ハレ農業地帶ハ消費地トシテ需給ノ平衡ヲ保ツテ來タノテアル。然ルニ滿洲國産業五箇年計畫ノ實施ハ役畜ノ急速ナル需要激增ヲ招來シ極度ノ供給難ニ陥リ更ニ邦人ノ大量移植ハ益之ヲ深刻化スルニ至ツタ

二 滿洲ノ農業ハ畜力ヲ根幹トスル特殊形態テアリ役畜ノ有無ハ夢農ノ成否ヲ決スル鍵鑰テアル從テ開拓民ノ移植ニ當リテハ役畜ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲之カ對策ノ講究カ急務テアル

三 本調査ハ滿洲國ニ於ケル役畜需給調整方策ノ確立ニ資スルノ目的ヲ以テ實施セルモノテ先ツ北滿及內蒙古ノ主要生産地帶ノ實態ヲ調査シタ。本編ハ其ノ中ノ北滿地帶ニ於ケル役畜資源ノ現態調査報告ヲ調査擔當者ハ職員山崎武雄及雇員澤井武テアル

昭和十四年六月

調査部第一調査室畜産班

興安北省同東省
濱江省及龍江省
ニ於ケル役畜資源調査報告

目次

調査ノ目的及調査地域	一
調査要項	一
調査日程	三
第一編 役畜資源ノ現態	五
第一章 役畜ノ種類、資質、能力	五
第一節 馬	五
第二節 牛	一九
第三節 騾	三〇
第四節 驢	三一
第五節 駱駝	三三
第二章 馬ノ地方別體型	三四
第一節 哈爾濱地方	三五
第二節 齊齊哈爾地方	三九
第三節 洮南附近產馬	四〇
第四節 海拉爾地方產馬	四五

頁

第三章 役畜ノ地方別分布及用途別現態 五二

第一節 役畜ノ地方別分布狀態 五二

第二節 役畜ノ用途別現態 七二

第四章 役畜ノ供給資源 七五

第一節 生産 七五

第二節 斃死率 七八

第三節 屠殺頭數 八〇

第四節 餘剩頭數ノ供給資源 八二

第五節 馬皮ノ出廻 八五

第五章 飼養管理 八七

第一節 畜舍及設備 八七

第二節 飼料 九〇

第三節 放牧 九六

第四節 裝蹄 九七

第五節 牧野 九八

第六節 蕃殖 一二〇

第七節 調教 一二六

第六章 放牧牛馬群ノ構成 一二七

第七章	馬匹ノ改良増殖	二二
第八章	衛生	二六
第二編	役畜ノ需給	四八
第一章	農耕用役畜ノ需給	四八
第二章	役畜ノ移動徑路及輸送方法	五〇
第三章	取引慣習	五五
第四章	各地方ニ於ケル集散狀況	五七
第一節	哈爾濱	五七
第二節	齊齊哈爾	六五
第三節	洮南	七九
第四節	海拉爾	八七
第五節	滿洲里	八九
第五章	役畜需給問題ニ對スル私見	九一

調査ノ目的及調査地域

滿支ニ於ケル役畜資源ノ現態ヲ明確ナラシメ之ヲ需給對照ニ付確實ナ
基礎ヲ與ヘントスルヲ目的トシ先ツ北滿地區就中濱江省、龍江省、興
東省及興安北省ノ四省管内ニ於ケル調査ヲ實施シタルモノテアル

調査要項

資源ノ現態

1 役畜ノ種類、資質、能力

2 役畜ノ地方別分布及用途別現態

3 役畜供給資源

イ 北滿地方ノ牧畜地帯ニ於ケル生産及減耗

（馬皮出廻調査併行實施）

ロ 內蒙古地方ノ牧畜地帯ニ於ケル生産及減耗

（馬皮出廻調査併行實施）

4 飼養管理

飼料、牧野、繁殖、調教等

5 衛生

一般衛生及鼻疽、炭疽ノ被害竝防遏狀況

二 役畜ノ需給

4	3	2	1
取引機 構及經 營狀況	取引慣 習、季 節、價 格、稅 捐、諸 掛	各地方 ニ於ケ ル集散 狀況	役商ノ 移動徑 路及輸 送法

調查日程

日	出發地	到著地
二一、二三	大連	滯在著地
二四	奉天	奉天
二五	新 京	新 京
二六	哈爾濱	哈爾濱
二七		
二八		
二九		
三〇	哈爾濱	齊齊哈爾
三一		
二	齊齊哈爾	富拉爾基
三	富拉爾基	札蘭屯
四	札蘭屯	博克圖
五		

摘

要

一三六	博克圖	札羅木特
七	札羅木特	ハイラル
八		
九		
一〇	ハイラル	奈勒穆圖
一一		
一二		
一三	奈勒穆圖	ハイラル
一四	ハイラル	滿洲里
一五	滿洲里	
一六		索倫
一七		
一八	索倫	洮南
一九	洮南	大連

第一編 役畜資源ノ現態

第一章 役畜ノ種類、資質、能力

今回ノ調査地域ニ於テ各種ノ勞役ニ供用セラルル家畜即チ役畜ノ種類ハ馬、牛、騾、驢及駱駝ノ五種類テアル

此ノ外ニ興安嶺ニ住ム一部狩獵民族間ニハ馴鹿ヲ役畜トシテ使用スルモノモアルカ本調査中ハ一頭モ見受ケルコトカ出テナカツタシ且頭數モ少ク役畜トシテハサシテ重要ナルモノテハナイカラ以下役畜ノ種類ヲ前記五種類ニ限定シテ論述スルコトトスル

第一節 馬

今回ノ調査地域ニ於ケル馬ノ種類ハ大別シテ蒙古種、後具加爾種及雜種ト爲スコトカ出來ル、コノ他ニサラブレツト種、アングロアラブ種、アラブ種、ハツクニ一種、ロシヤトロツター種、ギドラン種、アングムノルマン種等ノ洋種馬カ特殊ナル牧場或ハ國立種馬所等ニ繋留セラレテ居ルカソノ數ハ未タ極メテ微々タルモノテアルカラ是等ニ就テハ暫ク論及ヲ避ケテオク

蒙古種ハ勿論コノ地帯ノ在來馬テアリ、後具加爾種ハ近世ニ於ケル輸入馬テアルカラソノ分布狀態モ蒙古種カ最も廣ク且濃厚テアリ今回ノ調査地域内ハ勿論全滿到ル處ニ飼養セラレテ居ルカ後具加爾種及雜種馬ノ分

布ハ略ト與安北省東額旗（所謂三河地方）及綏遠省綏遠地方ニ限ラレテ
キル。殊ニ近年蘇滿國境ノ封鎖ニヨリ後具加路地方ヨリノ輸入力杜絶シ
タル結果後具加爾種ノ純粹馬ハ著シク減少シテ居リ筆者等ハ東額旗ナ
ムトニ於テスラ時期ノ惡イ關係モアツタカ純粹馬ハ遂ニ一頭モ觀察スル
コトカ出來ナカツタ程テアル

一 資質一體型ノ詳細ニ就テハ後述スル

イ 蒙古種

產地ニヨリ多少異ナルカ通有ノ體型ハ低尺（體高一・二—一・四米）
巨頭、長背、低頸、斜尻、後高、短脚等テアル、被毛長ク外貌粗
野ナルモ一般ニ性溫順ナルノミナラス體質強健ニシテ粗放ナル飼養
管理及凍烈ナル氣候ニ耐エ且疾病ニ對スル抵抗力ニ富ムノ美點ヲ有
スルタメ乗用、農耕用、輓用、駄用等利用範圍極メテ廣ク、殊ニ北
滿地方ニ於テハ農耕畜力ノ主力ヲ爲シテキル
乗用トシテハ稍悍威ニ乏シク且體軀矮小ニシテ速度大ナラサル缺點
アルモ蹄質堅ク肢關節ノ構造良好ナル爲長途ノ連續的使用ニ堪エ特
ニ不正地ノ歩行ニ巧ミテアル。就中側對歩ヲ爲スモノハ一ソノ數比
較的多シ一反動少ク、速度比較的大ナルカ故ニ乗用馬トシテ特ニ尊
重セラレテキル

貝加爾種

前述ノ如ク今回ノ調査ニ於テハ純粹種ハ遠ニ一頭モ觀察シ得ナカツ
 タカ露人畜產業者ニ選出セシメタ最モ酷似セル雜種馬數頭ニ就キ見
 ルニ次ノ如クテアツタ
 體型ハ蒙古馬ニ類似スルモコレヨリ體格稍大ニシテ對稱比較的良好
 テアル、體高一・三三米内外、體重三〇〇珎内外アリ、頭粗大ニシ
 テ外貌頗ル逞シク體幅、骨量ニ富ミ、四肢強靱、蹄質堅固ナルモ後
 軀ノ發育稍不良、斜尻テアル、尾毛及鬃ハ特ニ多生シ蹄ハ平蹄テア
 ツタ
 尙該露人ノ言ニ依レハザバイカル馬ノ特徴ハ外貌ノ逞シキコト、尾
 毛及鬃ノ多生スルコト、速度竝持久力ニ富ムコトテアリ、毛色ハ鹿
 毛及青毛カ最モ多イトノコトテアル
 體質ハ蒙古馬ヨリモ強健ニシテ外界ノ感作ニ對スル抵抗力ニ富ミ且
 性溫順ナレハ各種ノ勞役ニ供用セラレテキルカ就中持久力ニ富ミ速
 力大ナルカ故ニ乗用トシテ特ニ賞用セラレ、日露戰爭當時急襲慍悍
 ヲ以テ聞エタコザツク騎兵ノ乗用テアツタコトハ餘リニモ有名テア
 ル

ハ 雜 種

二

1

茲ニ論スル所ノ雜種トハ洋種相互間ノ交雜ニヨルモノテハナク蒙古種若ハ後貝加爾種ト洋種トノ交雜ニヨルモノニシテ勿論ソノ混入セル血液一種類一ノ質ト量トニヨツテ著シクソノ體型、能力ヲ異ニシテキルカ一般ニ在來種ヨリ體軀大キク體高一、三一、四、五米アリ氣品ニ富ミ、頭小サク頸細長ク、四肢ハ長大強靱テアル、特ニ在來馬ト異ナル點ハ後軀ノ發育良好ナル點ニシテ斜尻ヲ爲スモノハ薩メテ稀テアル、毛色ハ青毛、芦毛等多ク、性質ハ伶俐溫順ニシテ比較的悍威ニ富ミ各種ノ用途ニ適應シ體質ハ極メテ強健テアル能力

競走馬トシテノ能力

イ 蒙古馬

本種ハ體軀矮小ナルコト、肩峻立シテ步幅伸ビサルコト及後軀ノ發育不良ニシテ推進力ニ乏シキコト等速力ヲ要求スル競走馬トシテハ缺點極メテ多クセラフレツト其ノ他ノ洋種馬トハ勿論同日ノ論テハナイカ呼倫貝爾就中海拉爾附近產ノモノハ比較的速力ニ富ム爲上海、天津、哈爾濱、其ノ他ノ競馬場ニ於テ所謂チヤイナボニトシテ活躍シテキル
哈爾濱、新京、奉天ノ三競馬場ニ於ケル蒙古馬ノ速度最高記錄ハ